

小学校第3学年 道徳科 学習構想案 (例)

日時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
 場所 3年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 学習構想

主題名	尊敬, 感謝 (内容項目 B (7) 感謝)	
ねらいと教材	(1) ねらい 村人のために尽くした宗像堅固に対する村人たちの気持ちについて考える活動を通して, 生活を支えてくれている人々に, 尊敬し感謝しようとする心情を育てる。 (2) 教材名 白魚の来る川 出典: 「くまもとの心 小学校3・4年 (熊本県教育委員会)」	
評価の視点	評価の視点 1	評価の視点 2
	生活を支えてくれている人々に気付き, 尊敬や感謝をすることについて多面的・多角的な視点から考えている。	生活を支えてくれる人々に目を向け, 感謝の気持ちについて考えている。
目指す児童の姿		
自分の生活を支えてくれる人の思いや考えに気付き, それらの人への思いを深め, 尊敬と感謝の気持ちをもつ児童		
主題に迫る学習課題 (本時)	本主題で働かせる見方・考え方	
支えてくれる人に, どんな思いを伝えたいかな。	尊敬, 感謝について多面的・多角的に考え, 自分との関わりで考えながら, 自己の生き方についての考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導, 各教科等や体験活動等との関連的指導		
特別活動	道徳科	社会
<p>「1日のあいさつ」 ○時間と場面に合った挨拶の仕方を知り, 自分から進んで挨拶できるようにする。</p> <p>「交通ルールを守ろう」 ○自転車の安全な乗り方やルールを理解し, 安全に自転車に乗る方法を身に付けることができる。</p> <p>「感謝して食べよう～バランスのよい食べ方」 ○給食に携わっている方々に感謝するとともに, 自分たちが食べている物に関心を持ち, 体のことを考えて, バランスのよい食べ方をする。</p>	<p>「あいさつをすると」 (出典:新しいどうとく 3 東京書籍) B (8) 礼儀 挨拶や言葉遣いなどの礼儀の大切さに気付き, 誰に対しても真心を持って礼儀正しく接しようとする態度を育てる。</p> <p>「白魚の来る川」(本時) B (7) 感謝 村人のために尽くした宗像堅固に対する村人の気持ちを考える活動を通して, 生活を支えてくれている人々に尊敬し感謝しようとする心情を育てる。</p> <p>「大通りのサクラなみ木」 (出典:新しいどうとく 3 東京書籍) B (7) 感謝 生活を支えてくれる人々や, 現在の生活を築いてくれた高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする心情を育てる。</p>	<p>「地いきの安全を守る」 ○地域の安全を守るための諸活動について, 人々の生活との関連を踏まえて理解する。</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>「大豆はかせになろう」 ○地域の人と, 学級園に大豆を植え, 大豆の育ち方を調べる。</p> <p>「わたしたちのまちの今と昔」 ○自分たちの住むまちの土地の使われ方, 人口, 交通について調べ, まちのよさに気付き, よりよいまちづくりについて考える。</p>

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所 (ねらいや指導内容についての教師の捉え方)
<p>本主題は, 第3学年及び第4学年の内容項目 B (7) 「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。」を基にしたものである。</p> <p>よりよい人間関係を築くためには, 互いを認め合うことが大切であるが, その根底には, 相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき, 相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。感謝の気持ちは, 人が自分のためにしてくれている事柄に気付き, それはどのような思いでしてくれているかを知ることによって芽生え, 育まれるものである。身近な人々から, 見えないところで日々の生活を支えてくれる人々まで, 尊敬と感謝の念を広げていけるようにすることが大切である。</p>

本主題における系統

小学校第1学年及び第2学年 内容項目B(7)(感謝)

家族など日頃お世話になっている人々に感謝すること。
教材名「じぶんがしんごうきに」
主題名「ありがとうの気持ち」
(出典:新しいどうとく 2 東京書籍)

小学校第3学年及び第4学年 内容項目B(7)(感謝)

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
教材名「白魚の来る川」
主題名「尊敬、感謝」
(出典:くまもとの心 小学校3・4年)

小学校第5学年及び第6学年 内容項目B(7)(感謝)

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
教材名「土石流の中で救われた命」
主題名「感謝の心を持つ」
(出典:新しい道徳 6 東京書籍)

児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）

本学級の児童数（○人）

■主題に関する意識の状況

- (1) 日ごろ、お世話になっている人、支えてくれている人にはどんな人がいますか。
- (2) (1)で答えた人たちは、どんな気持ちだと思いますか。
- (3) その人たちに対して、あなたはどのように思っていますか。

項目のみ記載しています

■考察

教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）

教材「白魚の来る川」は、天草の楠浦町の庄屋宗像堅固が、村人のために私財を投げうって困難な大工事を完成させた話である。先人の偉業に対する村人の気持ちについて多面的・多角的に考えることを通して、尊敬や感謝することについて考えることができる教材である。

本教材を活用した授業においては、村人の気持ちを中心発問として考えることを通して、児童の多様な価値観を引き出しながら、社会や公共のために尽くした人々や日常生活を支えてくれている人々に対して尊敬し、感謝しようと思う児童の心情を育てていきたい。

3 指導に当たっての留意点

【導入・終末の工夫】（学習過程の工夫）

- 授業の導入場面では、日頃お世話になっている人に関する意識調査結果等を提示することで、児童が本時の主題に関わる問題意識をもてるようにしたい。その上で教材に出会わせていきたい。
- 授業の終末では、これまでお世話になった地域の方たちとの関わりの様子をスライドで提示することで、自分の生活を支えてくれる人たちの思いや考えを確認したり、今後の生活における心のもち方を考えたりする時間を十分確保したい。

【発問の工夫】（指導方法の工夫）

- 学習テーマを「支えてくれる人に、どんな思いを伝えたらいいかな。」とし、自分たちのために支えてくれた人の思いに気付いた登場人物の思いに着目し、中心発問を設定したい。
- 中心発問で、「村人たちは、堅固に対してどんなことを思ったのかな。」と問い、自分の考えをもった後、交流を行う。全体での話し合いを通して、支えてくれる人にどんな思いを伝えたいか、今日の学習で学んだことを基に考え、大切だと思ったことの納得解を見出していきたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

村人のために尽くした宗像堅固に対する村人たちの気持ちについて考える活動を通して、生活を支えてくれている人々を尊敬し、感謝しようとする心情を育てる。

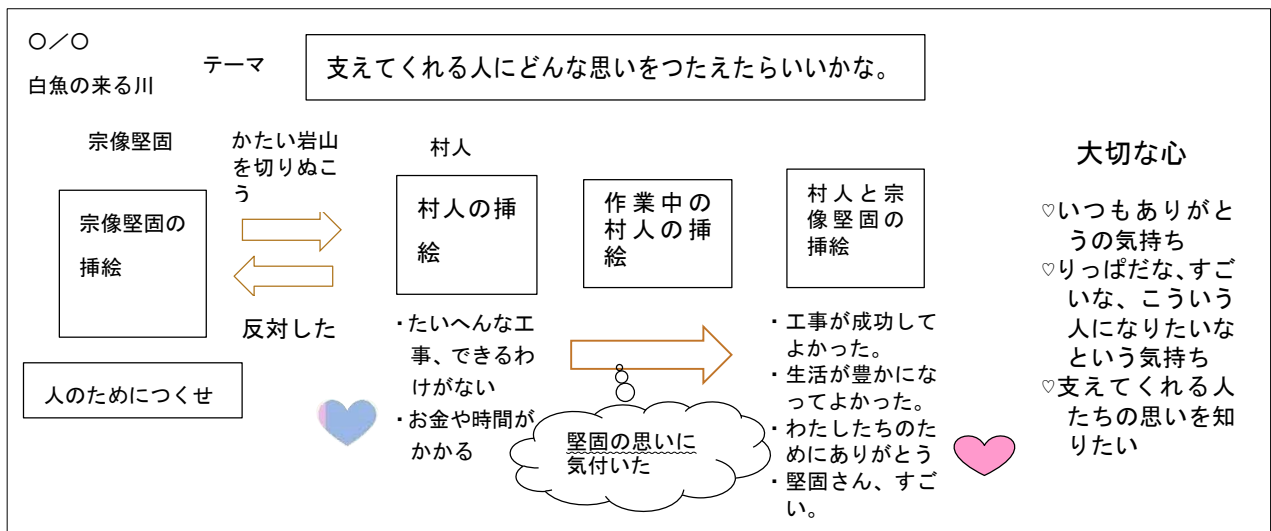
(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◎主発問○その他の発問◇指示・予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>(1) アンケート結果から、学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃、どんな人たちに支えられているのか話し合う。 <p>【学習課題】 支えてくれる人に、どんな思いを伝えたらいいかな。</p> <p>(2) 宗像堅固について話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗像堅固は、村人のために工事をしたなんてすごいな。 ・村人たちはこの工事や宗像堅固に対して、どう思ったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちを支えてくれる人が、家族や友達だけにならないように地域の人などに目を向けさせ、本時の学習課題につなげる。 ○学習課題の提示後に、楠浦村の位置や当時の村の状況、工事の困難さや堅固の決心など簡単に紹介し、村人の気持ちにも触れるなどして中心発問につなげられるようにする。
展開	30分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>(1) 感想を交流する。</p> <p>◇心に残っていることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固い岩山を掘ったのがすごい。それをしようとした宗像さんもすごい。 ・工事が無事に成功して、村人たちの生活がよくなってよかった。 <p>(2) 堅固から工事を提案されたときの村人の気持ちを考える。</p> <p>○堅固から工事を提案されたとき、村人はどんなことを思ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固い岩山を掘り抜く工事は、大変だ。 ・自分たちにはできない。 ・時間もお金もかかる。 <p>【中心発問】</p> <p>◎村人たちは、堅固さんに対してどんな思いをもったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事が成功してよかった。 ・堅固さんのおかげで、豊かに暮らせるようになった。 ・全財産を使って、工事をしてくれてありがとう。 ・自分たちのためにありがとう。 ・山を切り開くという考えがすごいな。 ・堅固さんみたいになりたいな。 ・これからも、この村を守っていくよ。 <p>(3) 宗像堅固に対する村人の思いから、今日のテーマについて交流する。</p> <p>○支えてくれる人に、どんな思いを伝えたいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとうの気持ち。 ・すごいな、自分もそうなりたいという気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あらすじをつかむために、動画を視聴することにより場面の状況をイメージしやすくする。 ○価値の方向付けをするために、視聴の前に村人の気持ちを考えながら見るよう視点を与える。 ○困難な大工事に反対している村人の気持ちを想像し、自分のこととして考えられるようにする。(人間理解) ○タブレット上のハートメーターを活用し、村人の気持ちを考える手立てとする。 ○堅固の村人を思う気持ちが、村人の心を動かしたことをおさえる。 ○交流の前に自分の考えをもつ時間を十分に確保する。(自己決定) ○いろいろな考えに出会い、全体で発表する意欲を高めるために、ワークシートを読み合う際には、同じ考えには黄色シール、気が付かなかった考えにはピンクシールを付けながら交流を進める。 ○自分と友達の考えを比較し、意見をつないで発表していくようにする。(共感的人間関係) ○村人が、堅固の村人を思う心に感謝し、その人柄に尊敬の念をもっていることに気づかせる。また、この豊かな生活を支えてくれた人(堅固)、支えられている人(村人)を明確にさせる。 ○多面的・多角的に考えられるように、児童の発言内容を受けて、価値観ごとに分けて整理していく。 ○堅固に対する村人の気持ちをもとに、支えてくれている人への思いについて、大切にしたい心を気付かせる。
終末	8分	<p>3 自分自身を振り返る。</p> <p>(1) 生活を支えてくれている人々を紹介する。</p> <p>○みなさんを支えてくださっている人たちは、たくさんいらっしゃいます。紹介します。</p> <p>(2) これまでの自分を振り返り、自分を支えてくれている人に何を伝えたいか考える。</p> <p>○日頃お世話になっている人はどんな人がいますか。その人に、どんな気持ちを伝えたいですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ふだん生活を支えてくれている人々をできるだけ多く挙げて、支えてくれる人が家族だけにならないよう、子どもたちの視野を広げる。 ○日頃お世話になっている人たちに、自分はどんな気持ちを伝えたらよいか考えさせ、感謝の気持ちを高める。

【評価の視点1】 生活を支えてくれている人々に気付き、尊敬や感謝をすることについて多面的・多角的な視点から考えている。(方法: 発言・ワークシート)

【評価の視点2】 生活を支えてくれる人々に目を向け、感謝の気持ちについて考えている。(方法: 発言・ワークシート)

【板書計画】



【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

- 展開場面（テレビ）
教材「白魚の来る川」の内容理解のため、「くまもとの心」のDVDを活用する。
- 児童用タブレット
教科書に掲載されている心のハートメーターを活用し、気持ちを考える手立てとする。
- 終末場面（テレビ）
振り返りの場面において、生活を支えてくれている方々を具体的な場面をもとに想起できるように、地域の人たちにお世話になっている児童の写真をスライドで提示し、生活を支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを高める。